

“ふるさとちば”のための政策推進を



# 鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 都市問題解決に全力投球

# 都営新宿線の延伸実現を



### 市川市特集 12月県議会一般質問

## 本八幡—新鎌ヶ谷駅間

鈴木衛県議(市川市選出、一期)は昨年の十一月県議会で、予算委員会を含めて早くも七回目の登壇を果たしました。この間、一貫して市川市が直面する都市問題の解決を、市民を代弁して県に訴えてきました。今回の一般質問でも、既存路線の混雑解消に寄与する都営新宿線の延伸や、渋滞する京葉道路原木インターチェンジ周辺道路の改良などについての方針を森田知事らに聞き、要望をしました。鈴木衛県議の質問と県担当者の答弁を特集します。

鈴木議員 東京10号線いわゆる都営新宿線は都心から本八幡駅を終点として運行されているが、本八幡から新鎌ヶ谷間を東京10号線延伸新線と位置づけ、第三セクターによる事業化の促進が図られている。

この延伸計画は千葉ニュータウンを含めた沿線地域と都心とのアクセス向上、ならびに、成田空港利用者の利便性向上、既存鉄道各線の混雑緩和が期待され、県民の生活に大きく寄与する重要な計画。そこでどうか、県として延伸計画に今後どのように取り組んでいくのか。

知事 東京10号線延伸新線については、県と地元市川市、鎌ヶ谷市で構成する「東京10号線延伸新線検討委員会」を平成十三年八月に設置し、これまで事業化に向けた調査検討を行ってきた。

その結果、この新線については、多額の事業費が見込まれること、事業採算性の問題があること、新たな第三セクターの立ち上げが必要なこと、などの課題が明らかになっています。

今後も地元市川市、鎌ヶ谷市の意向を十分聞きながら、検討を続けてまいります。鈴木議員 平成十二年の運輸政策審議会の答申第十八号は延伸計画区間を、沿線の開発状況を見極めつつその整備を検討する路線とした。現在の交通政策審議会において、次期答申の動きはあるか。

知事 今年度の交通政策審議会は七月に開催されましたが、この会議では、平成二十七年を目標準年とする答申第十八号に続く「新たな鉄道網整備計画」に係る議論は行われませんでした。

平成二十八年度以降の新たな計画について、今後、交通政策審議会においてどのように議論されていくのかは不明であると、国からは聞いております。

鈴木議員 東京10号線延伸新線の整備は市川市や鎌ヶ谷市における鉄道不便地域を解消し、千葉ニュータウンを中心とする県北西部から東京都心方面へのアクセスを改善する。

これまでの検討においても収支採算性や事業主体、整備手法、他の鉄道事業者への影響など、解決すべき課題もあるが、本路線の整備は既存鉄道の混雑緩和や交通の円滑化、鉄道利用者の利便性の向上、総合交通体系やまちづくりの観点からも必要性は高いと思われる。東京10号線延伸新線の実現に向けて、がんばっていただくことを願います。

鈴木議員 少人数学級の推進については、国の基準として三十五人学級あるいは三十人学級となった場合、県費負担部分に対する予算措置とその見直しはどうか。

教育長 公立義務教育諸学校教職員の人員費につきまして、義務教育費国庫負担法により、三分の一は、国が負担しております。残りの三分の二は県費負担分となります。

今後、国の定数改善計画が実施され、学級編制の基準が三十五人学級あるいは

これまでもの検討においても収支採算性や事業主体、整備手法、他の鉄道事業者への影響など、解決すべき課題もあるが、本路線の整備は既存鉄道の混雑緩和や交通の円滑化、鉄道利用者の利便性の向上、総合交通体系やまちづくりの観点からも必要性は高いと思われる。東京10号線延伸新線の実現に向けて、がんばっていただくことを願います。

鈴木議員 少人数学級の推進については、国の基準として三十五人学級あるいは三十人学級となった場合、県費負担部分に対する予算措置とその見直しはどうか。

鈴木議員 少人数学級による学級編制となれば学級が増加し、さらに施設・設備の増設などが必要となるため、国の方針が決まり次第、市町村に対して支援をするよう要望する。

平成二十八年度以降の新たな計画について、今後、交通政策審議会においてどのように議論されていくのかは不明であると、国からは聞いております。

### 鈴木まもる県議プロフィール

- 略 歴
- 昭和26年 市川市若宮生まれ
  - 私立市川高校卒業
  - 専修大学文学部中退
  - 市川市議会議員当選(4期)
  - 市川市議会議長
  - 平成19年千葉県議会議員当選
- 現 職
- 県議会 商工労働企業常任委員会委員長
  - 千葉県 水道事業運営審議会委員
  - 市川交通安全協会会長
  - 市川市サッカー協会会長
  - 市川市少年野球リーグ会長
  - 市川商工会議所参与
  - 市川市観光協会副会長
  - 市川食品衛生協会顧問
  - 市川市商店会連合会相談役

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる 県議事務所 〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F  
TEL047-333-6000 FAX047-322-3232

鈴木まもるホームページ http://www.suzukimamoru.com

HPもご覧下さい。… 検索 ちば自民党 議員リスト 県議会議員 市川市

### 船橋行徳線市川市二俣地先

# 交差点改良と歩道整備急務

鈴木議員 市川市内の交通の要衝である京葉道路原木インターチェンジ周辺の道路は、四六時中、渋滞し、地元市川市からこのインターチェンジを取り巻く環境改善、整備の要請が来ているにもかかわらず、いまだに改良の兆しさえ見えない。

境改善、整備の要請が来ているにもかかわらず、いまだに改良の兆しさえ見えない。そこで、かがうが、県道船橋行徳線市川市二俣地先の交差点改良と歩道整備についてどのようか。県土整備部長 県道船橋行徳線市川市二俣地先の交差点は、隣接する原木インターチェンジを利用する車両が多く、また歩行者も多いため、交差点改良と歩道整備が必要と考えております。

このため県では、交差点改良に必要な用地の一部を確保するとともに水路敷を利用する歩道計画についても、関係機関と協議が整い事業着手の目処が立ったところで。今年度は、測量や交差点の概略設計などを行うとともに、引き続き地元関係者の協力を得ながら、事業の推進に努めてまいります。

鈴木議員 市川航路の浚渫土砂を有効利用し、三番瀬に干潟を再生しようとのプランについてどのような検討が行われたのか。また、市川市からの要望や検討会

高谷線は、京葉道路原木インターチェンジと、現在事業中の東京外かく環状道路及び(仮称)妙典橋を結ぶ、延長約一・七キロの新設道路であり、県道船橋行徳線のバイパスとして、位置づけられております。このうち、(仮称)妙典橋

の取付区間となる約三百メートルについては、平成二十三年の完成を目指し、鋭意工事を進めているところで。残る区間については、外環など、周辺道路の整備状況を見ながら、実施に向けて引き続き市川市と協議してまいります。

## 市川航路の浚渫土砂使い 三番瀬に干潟再生を

鈴木議員 市川航路の浚渫土砂を有効利用し、三番瀬に干潟を再生しようとのプランについてどのような検討が行われたのか。また、市川市からの要望や検討会

での状況を踏まえて、県は、今回、どこまで実現できるのか。総合企画部長 浚渫土砂の活用が見込まれる干潟の再生については、平成十九

年九月に学識経験者、漁業関係者、地元市などで構成する検討委員会を設置し、検討を進めてきたところで、本年は、市川市塩浜、二丁目護岸前面において、

また、漁場改善のための覆砂については、「三番瀬漁場再生検討委員会」において、有効な手法として検討しているところであり、併せて、事業実施する場合には、関係漁協との協議を進めていくところで。鈴木議員 市川航路の浚渫土砂の有効活用について、平成二十四年度以降も計画的な浚渫を行うとともに、その土砂を活用して三番瀬の再生を進めるべきと考え

## 京葉道路原木インターチェンジ 渋滞目立つ周辺道路



県議会議場の自席で再質問する鈴木衛県議

鈴木議員 市川市内の交通の要衝である京葉道路原木インターチェンジ周辺の道路は、四六時中、渋滞し、地元市川市からこのインターチェンジを取り巻く環境改善、整備の要請が来ているにもかかわらず、いまだに改良の兆しさえ見えない。

今年度は、測量や交差点の概略設計などを行うとともに、引き続き地元関係者の協力を得ながら、事業の推進に努めてまいります。

鈴木議員 市川航路の浚渫土砂を有効利用し、三番瀬に干潟を再生しようとのプランについてどのような検討が行われたのか。また、市川市からの要望や検討会

での状況を踏まえて、県は、今回、どこまで実現できるのか。総合企画部長 浚渫土砂の活用が見込まれる干潟の再生については、平成十九

また、漁場改善のための覆砂については、「三番瀬漁場再生検討委員会」において、有効な手法として検討しているところであり、併せて、事業実施する場合には、関係漁協との協議を進めていくところで。鈴木議員 市川航路の浚渫土砂の有効活用について、平成二十四年度以降も計画的な浚渫を行うとともに、その土砂を活用して三番瀬の再生を進めるべきと考え

## 船橋市との協議必要 見解 人工海浜施設の移管 市川市への移

鈴木議員 市川地先の人工海浜施設の移管について、市川市から提出された要望書に対し、企業庁はどのような調整をしてきたのか。また、今後どのように進めたいと考えているのか。企業庁長 京葉港中央地区の突堤などの人工海浜施設につきましては、企業庁が市川市及び船橋市と協議をした上で、昭和五十七年

に「人工海浜の管理に関する協定」を締結いたしました。企業庁が水域占用及び突堤の補修などの基本的な管理を、また、船橋市が清掃業務などの通常の維持管理をそれぞれ行ってきたところで。この人工海浜施設は、一体的な管理が必要な施設であることから、従前から管理を行っている船橋市と移

管について、これまで協議を進めてきたところで。こうした中、市川市から人工海浜施設の移管を求め、要望書が提出されました。現在、船橋市に対して意向を確認しているところであります。両市との間で協議が整った場合には、企業庁として人工海浜施設の移管について改めて検討してまいります。

鈴木議員 企業庁において、要望が実現されるよう船橋市に働きかけていただきたいと思います。企業庁長 今後、船橋市と市川市でよく協議されるよう働きかけてまいります。と

### 市川市特集

### 12月県議会一般質問

# 生活いきいき宣言

# 鈴木まもる県議

鈴木議員 企業庁において、要望が実現されるよう船橋市に働きかけていただきたいと思います。

鈴木議員 地元住民や漁業者が望んでいる干潟の再生及び覆砂による改善を進めることをお願いしたい。